

ライフサイクル制度、業務外注化、ダイ改合理化、基地統廃合、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

不当処分・運転士剥脱 絶対にゆるさない！



JR千葉支社は、佐倉駅で運転席から用を足してしまった問題で、10月17日の動労千葉との団交の直後、当該の動労千葉組合員に、運転士の職を剥脱してCTS成田駅に強制出向するという通知を行いました。減給処分に加え、「信用を失墜させた」などと言って運転士生命まで断つというのです。
絶対に許せない！ 動労千葉は怒りに燃えて全力で反撃にたちあがろうとしています。

生理現象で処分するな！

時間厳守が求められ、運転席から離れられない乗務員にとつて、トイレの問題は本当に切実で深刻です。

「自分のトイレのために列車を遅らせるわけにはいかない」と、必死に耐えて、それでも我慢の限界に達して運転席からしてし

まった。これが一人の労働者の人生を奪うまで責め立てるべきことでしょうか？

生理現象は自分の意志ではどうにもならないことがあります。しかし、簡単には休めません。「指令に連絡すれば駅のトイレに行つていい」「列車が遅延しても構わない」という綺麗事で済まないことは、乗務員の誰もが経験していることです。実際に、運転席で洩らしてしまった乗務員もいるほどなのです。乗務員を責めて済む問題ではありません。

尼崎事故と根っこは同じ

もっと重大なのは、JRのやっていることが尼崎事故を引き起こした問題と根っこは同じということ。人格や人権まで否定するような形で運転士を締め付けたことが、ありふれた些細なミスを、107名の生命を奪う最悪の事故にまで拡大させてしまいました。

近鉄奈良線で車掌が高架から飛び降り自殺を図った事件は、いつ「第2の尼崎事故」になってもおかしくありません。「胡坐をかいた」と摘発された運転士は、今も乗務を外され、同じように運転士の職を剥脱されようとしています。もう限界です。こんなことを続けられ、間違いなく重大事故が起きます。処分撤回・乗務復帰へ闘う動労千葉とともに、反撃の声をあげよう。